

-INTERVIEW 01-

主要施設がまとまり 教育環境にも恵まれた 子育てに最適なまち

杉原 愛さん
AI SUGIHARA

生まれ育ったまちの 教育環境に魅力を感じ Uターン

私は広野町の出身で、隣町のいわき市で学童保育の仕事をしていました。その頃、共通の友人を通じて建設業で働く夫と知り合い、交際期間を経て結婚。その後、夫の学びのため、北海道の札幌市へ移住しました。移住をして二年八ヶ月が経った頃に、自分の地元である広野町で子育てがしたいと思うようになり、Uターンを考えはじめました。

Uターンにあたり、現在のまちの子育て事情について調べてみると、幼児教育から高等教育までを隣接で行える「教育の丘」という恵まれた教育環境であることを知り、広野町へのUターンを決心しました。

そして、次男がまだお腹にいる頃の二〇二一年一月に広野町に戻ってきました。移住前の札幌市では、一年を通して日照時間が短く、天候が曇りや雪の日が多いためか、夫は到着した瞬間に明るい太陽の光に感動していました。

住み続けていきたいまち だからこそ、 今後の成長に期待

移住の際に苦労したのは、金銭面と住居です。父の援助と、町営住宅への当選で拠点を置くことができました。子どもたちが通う「広野こども園」や、「役場」「ひろのてらす」など、主要施設が近く、一つのエリアにまとまっているので、利便性は抜群です。

住んでみて感じたことは、Uターンのきっかけとなった教育環境がとても良いこと。「教育の丘」を中心にもとも園・小中学校・ふたば未来学園の幼保小高校までの教育施設が集約され、先生方も一生懸命です。「教育の丘」から見下ろす街並みや海がとてもしきれいで、魅力的な環境が整っていると感じます。夫は長期出張も多く、長いときは二ヶ月間不在となる場合もありますが、そんな時に、「広野こども園」の先生方や保健師さんが気にかけてくださるので、とても助かっています。

生活をしてみて感じたことと言えば、商業施設がもう少し欲しいこと。買い

物では、単身者向けの食料品が多いように感じられ、また小児科が無いため、困ることもあります。施設が充実しているから移住者が増える、移住者が増えたから施設が充実していく、様々な要素があるかと思いますが、広野町は双葉郡の入り口ですし、これからますます住み続けていこうと思っているので、まちの今後の成長に期待しています。

皆が自由に集まれる、 そんな居場所を つくっていきたい

今はマッサージュ店とコミュニティカフェを融合したスペースを作りたいと考え「広野暮らし相談窓口りんくひろの」で相談させて頂いています。子育てママが集まったり、子育ての先輩から話が聞けたり、もちろん子ども達も自由に集まれる。コミュニティカフェがまちの皆さんの第三の居場所になっていたら嬉しいですね。

